

栗毛坂遺跡群 東赤座遺跡III

長野県佐久市岩村田 東赤座遺跡III 発掘調査報告書

2024.3

佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は、長野県佐久市が行う道水路新設改良事業 赤座東線整備工事に伴う東赤座遺跡IIIの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 佐久市役所 道路建設課
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び調査面積 粟毛坂遺跡群 東赤座遺跡III (IH2III) 452m²
5. 所在地 佐久市岩村田3759-5 外4筆
6. 調査期間 令和3年10月11日～11月22日(現場発掘作業)
令和3年11月24日～令和6年3月(報告書作成作業)
7. 調査担当者 富沢一明
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、堅穴建物址 (Ta)・掘立柱建物址 (F)・土坑 (D)・溝 (M) である。
2. 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
3. 遺構の標高は遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
5. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。



発掘調査状況

目 次

例言・凡例・目次

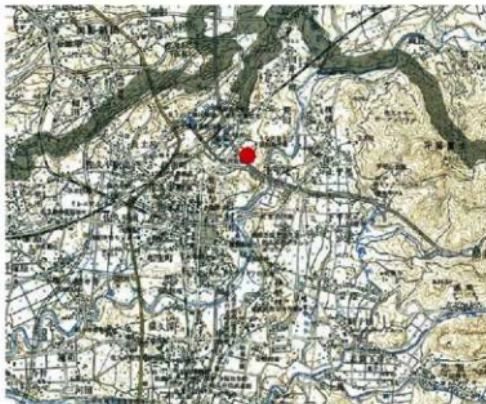
第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 経過と立地
2. 調査体制
3. 調査日誌
4. 遺構・遺物の概要
5. 標準土色
6. 調査の方法

第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 堅穴建物址
2. 掘立柱建物址
3. 土坑
4. 溝状遺構
5. 単独ピット
6. 遺構外出土遺物

第Ⅲ章 調査のまとめ



第1図 東赤座遺跡III位置図

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 経過と立地

東赤座遺跡Ⅲは佐久市岩村田に所在する。遺跡は栗毛坂遺跡群の中ほどに位置し、東側には湯川が南流している。

本遺跡の南側には上信越自動車道が南東から北西に向かって建設されており、自動車道建設の折に長野県埋蔵文化財センターにより栗毛坂遺跡群B地区36000m²として発掘調査が行われている。調査の結果は、台地上に古代の集落と中世の集落が検出されている。検出された遺構は奈良・平安時代として住居址79軒、掘立柱建物址89棟、土坑486基、中世以降の遺構として掘立柱建物址11棟、住居址6軒、溝址56本であり、古代の集落は9世紀～10世紀前半を主体とし一部11世紀前半まで継続する。また、今回、当遺跡で検出された遺構と関連のある中世の遺構は約100mの間隔おきに3ヵ所の屋敷を呈した遺構集中区が検出された。時代の推定できる1群は13～14世紀前半に比定されている。中世前半の調査事例の少ない佐久地域にあって貴重な調査成果となっている。

今回、遺跡内において佐久市道路建設課により道水路新設改良事業が計画され、市教育委員会に文化財保護法94条の通知があった。市教育委員会では試掘・確認調査を行った結果から遺構が検出された部分について記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。

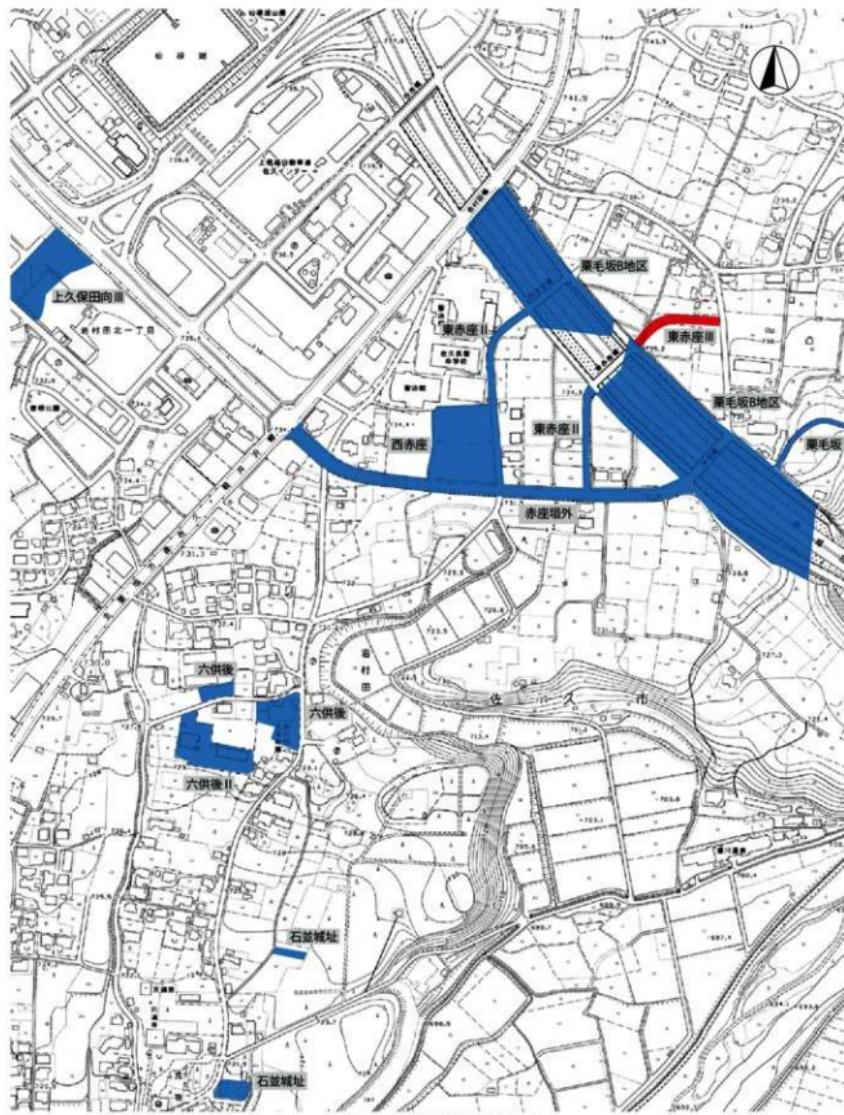
2. 調査体制

調査受託者 佐久市教育委員会

教 育 長	吉岡道明(令和3年6月～)
事 務 局 社会教育部長	土屋 孝(令和3～4年度) 依田 誠(令和5年度～)
文化振興課長	平林照義(令和3年度) 中沢栄二(令和4年度～)
企 画 幹	谷津和彦(令和3年度) 井上 剛(令和4年度～)
文化財調査係長	山本秀典(令和3年度 令和4年度7月～) 伊澤信子(令和4年度4～6月)
文化財調査係	小林真寿羽 羽田野卓也(令和3年度) 富沢一明 上原 学 久保浩一郎 松下友樹(令和4年度～)
調 査 員	小林妙子 箕輪由紀 柳澤孝子 堀篠保子 堀篠まゆみ 小林敏雄 岩松茂年 油井満芳 原 圏子

3. 調査日誌

令和3年 5月24日	佐久市道路建設課より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知。
5月25日	長野県教育委員会へ市教育委員会より3佐教文振第1124-2号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について(副申)
6月3日	長野県教育委員会より3教文第8-50号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)
7月29日	佐久市教育委員会により試掘・確認調査を実施。
8月11日	長野県教育委員会に結果報告。
8月27日	佐久市道路建設課より埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出。 市教育委員会より概算調査費の見積について回答。 佐久市道路建設課より埋蔵文化財発掘調査の実施依頼。
10月11日～11月22日	発掘調査を実施する。
11月24日～令和4年3月	記録類・出土品の整理業務を開始する。
令和5年 4月7日	本年度の調査について道路建設課より依頼を受け、作業を開始する。
令和6年 3月	記録類・出土品を整理し保管を行い、すべての業務を終了する。



第2図 周辺遺跡位置図

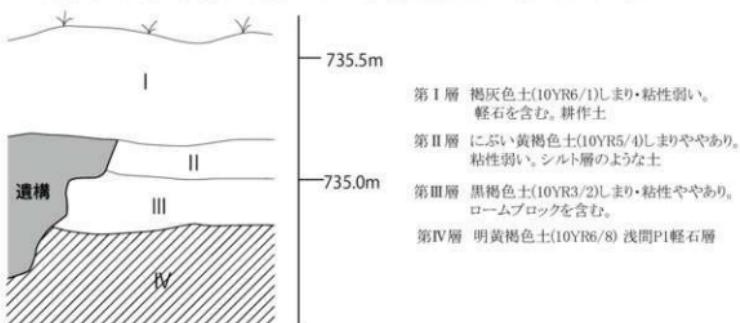
(1:5000)

4. 遺構・遺物の概要

遺構	竪穴建物址 1 棟	掘立柱建物址 1 棟	溝状遺構 13 本	土坑 13 基
遺物	縄文土器(中期)	須恵器(堯)	中世陶器類	石製品

5. 標準土層

今回の調査地点は緩やかに南方向に傾斜する台地上であり、基本層序は 4 層に分かれる。表土下に部分的に砂層が堆積する部分があった。遺構確認面は II 層上面である。



第3図 標準土層模式図

6. 調査の方法

遺構調査・遺構測量

竪穴建物址は均等に 4 分割し、対面する 2 区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。

遺物は分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続する No. を付け 3 次元の記録を行い取り上げた。土坑は長軸方向に沿って 2 分割し、半裁により土層の観察・記録を行った後完掘した。

遺物は遺構 No. で一括した。溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。遺構外の遺物はグリッド毎に取り上げた。平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により調査担当及び調査員が実施し、縮尺は 1/20 を基本とした。

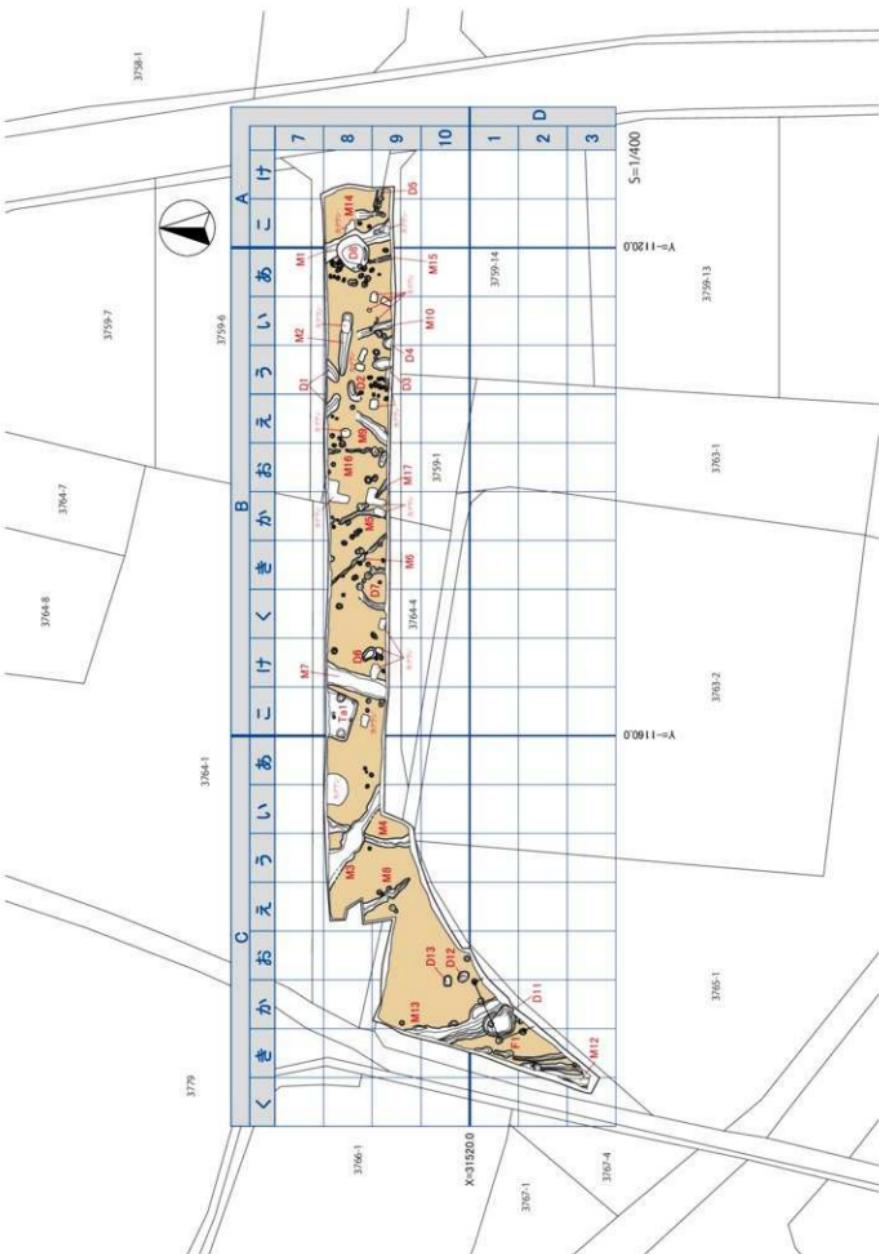
遺構・遺物の整理等

遺物洗浄は竹ブラシを用い手でおこない、室内で乾燥させた。注記は白色のポスタークーラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。遺物接合はセメダイン C を使用し、遺物復元の際の充當材はエボキシ系樹脂を用いた。遺物実測は手取りで行った。遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。遺構図面は 1/20 で測量実測した図を 1/40 で修正し、遺物は 1/1 で実測し、それぞれ仮図版を作成した。

写真・報告書

現場での写真是、デジタル一眼レフカメラによる RAW 画質モードと、35mm 一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。

遺物写真是デジタル一眼レフカメラで撮影し、E P S データ形式で報告書に使用した。報告書挿図はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で作成した。写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらを最終的に「インデザイン」により頁単位で編集し、印刷原稿とした。



第4図 東赤座遺跡III調査全体図

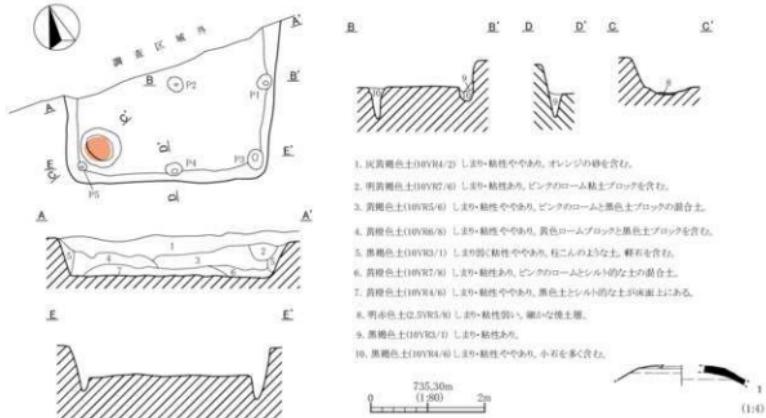
第II章 遺構と遺物

1. 壊穴建物址

(1) Ta 1号壊穴建物址

本址は調査地中央のB-こ-8、C-あ-8Grで検出された。一部北側が調査区域外となる。形態は方形で、規模は東西長6.4m、検出部分の南北長4.4m、深さは西壁で0.52mを測る。面積は検出部分で5.97m²を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は10層に分かれたが、1~3層は人為的に埋め戻されたようなロームと黒色土が混ざった土であった。床は地山を踏み固めたような土で、貼床は確認できなかった。ビットは壁際を中心で5か所確認された。規模はP1が径0.32m・深さ0.26m、P2が径0.29m・深さ0.59m・P3が径0.38m・深さ0.45m、P4が径0.33m・深さ0.50m、P5が径0.20m・深さ0.28mを測る。いずれも小型のビットで顯著な柱痕は確認できなかった。また、本址からは遺構の南西コーナー部に炉的な部分が検出された。焼土はよく焼けており、径0.46m・焼土厚み0.04mが確認された。

本址からの出土遺物は非常に少なく、1の須恵器蓋を図示できたのみである。これらの事から本址の帰属時期の確定は難しいが、遺構形態や床の状態から中世の所産と考えられる。



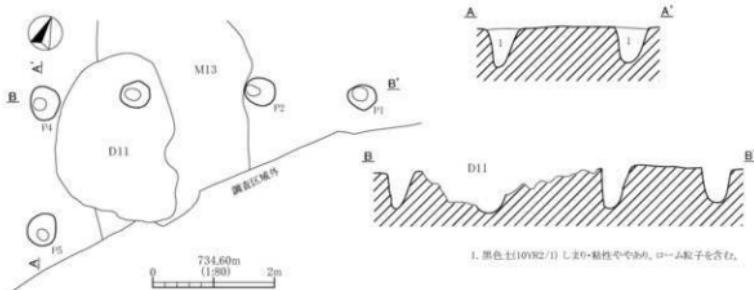
第5図 Ta 1号壊穴建物址及び出土遺物実測図

2. 据立柱建物址

(1) F 1号据立柱建物址

本址は調査地南端のD-お・か・き-1、D-き-2Grで検出された。一部南側が調査区域外となる。D11号土坑やM13号溝状遺構より本址が古い。形態は側柱式建物址で、現状では梁・桁方向は不明であるが、東西を基軸とすると方位はN-68° - Eを測る。規模はP1-P4間が5.28m、P4-P5間が2.20mを測る。面積は検出部分で8.61m²を測る。ビットは5か所確認された。規模はP1が径0.48m・深さ0.57m、P2が径0.52m・深さ0.69m・P3が径0.48m・深さ0.28m、P4が径0.54m・深さ0.58m、P5が径0.56m・深さ0.68mを測る。いずれのビット覆土も黒色土で、柱痕を確認できたものはなかった。

本址からの出土遺物はいずれのビットからも無く、所産時期の確定には至らないが、覆土の状態や遺構の新旧関係から古代の遺構と考えられる。



第6図 F 1号掘立柱建物址実測図

3. 土坑

(1) D 1号土坑

本址は調査地東よりのB-う・え-8Grで検出された。形態は逆「ハ」の字状に掘り込まれた掘り込みで、大部分が調査区域外となるため全容は不明であるが、近隣の遺跡調査成果から、いわゆる「円形周溝墓」的な掘り方をもつ特殊遺構と呼ばれる一群に属すると考えられる。南に近接する栗毛坂遺跡群B地区の特殊遺構8は複数の柱穴を伴い、平地式建物の可能性が指摘されている。円の推定径は約6mを測る。検出された部分の掘り込みは幅が0.80~0.96m、深さが0.17~0.30mを測る。

本址からの出土遺物は土師器甕片が出土したが、小片であり図示できなかつた。本址の帰属時期は不明である。

(2) D 2号土坑

本址は調査地東よりのB-う・え-8Grで検出された。形態は不整形で、規模は長軸長1.76m、短軸長は残存部で0.72m、深さは0.54mを測る。長軸方位はN-67°-Eを測る。本址の底面は凹凸があり、南側で一段深く掘り窪められていた。本址からの出土遺物は無かつた。

(3) D 3号土坑

本址は調査地東よりのB-う-9Grで検出された。形態は梢円形で、南側は調査区域外となる。規模は検出長軸長1.40m、短軸長0.80m、最深部で0.27mを測る。長軸方位はN-6°-Wを測る。本址からの出土遺物は無かつた。

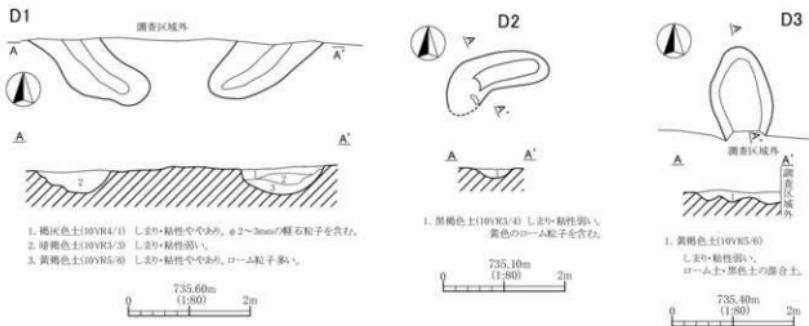
(4) D 4号土坑

本址は調査地東よりのB-い・う-9Grで検出された。遺構の大部分が調査区域外となるため、形態や規模は不明である。遺構の深さは0.38mを測る。本址からの出土遺物は無かつた。

(5) D 5号土坑

本址は調査地東端のA-け・こ-9Grで検出された。形態は不整形である。規模は検出長軸長1.60m、短軸長0.48m、深さは0.15~0.30mを測る。本址の覆土は、褐色でしまりが弱く砂が含まれていた。本址は細長い形状や覆土の状況から畑の歴史の可能性がある。

本址からの出土遺物は土鍋底部と考えられる破片が出土したが小片であり図示できなかつた。



第7図 土坑実測図(1)

(6) D 6号土坑

本址は調査地中央のB-けー8・9Grで検出された。形態は楕円形で、規模は長軸長1.32m、短軸長0.66m、深さ0.47mを測る。長軸方位はN-46°-Wを測る。壁はなだらかに立ち上がる。本址の覆土はTa 1号堅穴建物址に似ており、帰属時期が同じか。本址からの出土遺物は無かった。

(7) D 7号土坑

本址は調査地中央のB-き・く-8・9Grで検出された。形態はD 1号土坑で述べたような円形の「特殊遺構」と考えられ、南側は調査区域外となる。規模は直径3.46m、溝状の掘り込み部分は幅が0.30~0.52m、深さは0.32mを測る。本址からの出土遺物は無かった。

(8) D 8号土坑

本址は調査地東端のA-こ-8、B-あ-8Grで検出された。形態は円形で、規模は長軸長3.02m、短軸長2.64m、最深部で0.64mを測る。長軸方位はEを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸があった。また、本址の底面上には薄くシルト層と砂層が交互に堆積し、水が溜まっていた状態があつた事を示していた。本址からの出土遺物は無かった。

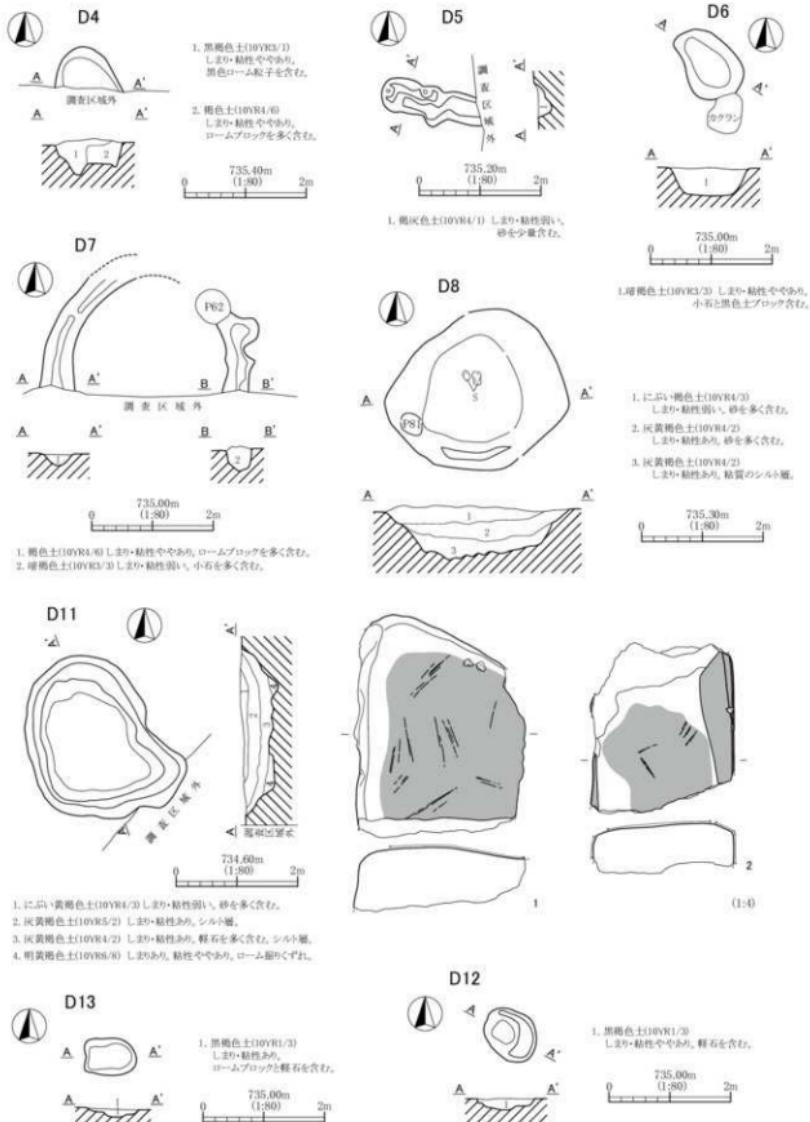
(9) D11号土坑

本址は調査地南よりのD-か・き-1Grで検出された。形態は不整形である。規模は長軸長2.64m、短軸長2.00m、最深部で0.60mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。本址もD 8号土坑と同じく、底部付近にシルト層が堆積し、水が溜まった状態を示していた。本址からの出土遺物は図示した磨り石2点があった。いずれも自然石の一部を砥面としていた。

D 8号土坑とD11号土坑は、いずれも溝状遺構と重複する部分につくられている事と下層に水が溜まったような状況を示すシルト層の堆積など共通する部分が多く、同一の性格を有する土坑と考えられる。

(10) D12号土坑

本址は調査地南よりのC-あ・か-10Grで検出された。形態は楕円形で、規模は長軸長0.98m、短軸長0.66m、最深部で0.20mを測る。長軸方位N-37°-Wを示す。本址からの出土遺物は無かった。



第8図 土坑実測図(2)

(11) D13号土坑

本址は調査地南よりのCーお・かー10Grで検出された。形態は梢円形で、規模は長軸長0.84m、短軸長0.60m、最深部で0.15mを測る。長軸方位はEを示す。壁は緩やかに立ち上がる。本址からの出土遺物は無かった。

4. 溝状遺構

(1) M 1号溝状遺構

本址は調査地東端のAーこー8・9、Bーあー9Grで検出された。南北端が調査区域外となる。形態は断面逆台形状で、壁はなだらかに立ち上がる。底面は一部凹凸があるが、ほぼ平坦であった。規模は幅1.06~1.52m、深さ0.27~0.62mを測る。検出長は5.62mを測る。覆土中には砂やシルト層が混じり、流水の痕跡が確認できた。

本址からの出土遺物は6点を図示した。1は常滑瓶の破片と考えられる。2と3は同じ石材の硯破片である。2は「陸」と「海」の部分が残存している。4は上面1面に顕著な砥面が確認できる石製品で、置き砥石的な使用が考えられる。5は鉄製の釘と考えられる。6は湾曲のある鉄製品である。

本址はこれらの遺物から中世の所産時期が考えられる。

(2) M 2号溝状遺構

本址は調査地東よりのBーいーうー8Grで検出された。西側は自然地形により削平されている。形態は断面U字形状で、底面はほぼ平坦であった。規模は幅0.44~0.92m、深さ0.04~0.16mを測る。検出長は5.14mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。本址からの出土遺物は無かった。

(3) M 3号溝状遺構

本址は調査地西端のCーいー8・9、Cーう・えー8Grで検出された。北側と南側が調査区域外となる。形態は断面逆台形の形状で、底面は凹凸が激しかった。規模は検出部分で幅0.76~1.86m、最深部0.40mを測る。検出長は9.20mを測る。壁はなだらかに立ち上がる。本址覆土は細かな砂が堆積していることから流水路としての機能があったと考えられる。本址からの出土遺物は土師器壺片があつたが小片のため図示できなかった。

(4) M 4号溝状遺構

本址は調査地西端よりのCーいーうー8、Cーうー9Grで検出された。南北端が調査区域外となる。重複するM 3号溝状遺構より古い。形態は断面「V」字状で、底面は一部凹凸があり、屈曲が激しかった。規模は幅0.64~1.32m、深さ0.20~0.67mを測る。検出長は3.00mを測る。壁は急激に立ち上がる。本址からの出土遺物は土師器壺片があつたが小片のため図示できなかった。

(5) M 5号溝状遺構

本址は調査地中央のBーかー8・9Grで検出された。南側が調査区域外となる。また北側は削平されている。形態は断面U字形状で、底面はほぼ平坦であった。規模は幅0.30~0.48m、深さ0.04~0.13mを測る。検出長は4.24mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。本址からの出土遺物は無かった。

(6) M 6号溝状遺構

本址は調査地中央のBーかー9、Bーきー8・9Grで検出された。北側と南側が調査区域外となる。形態は断面逆台形の形状で、底面はほぼ平坦であったが非常に狭く、一部壁よりも斜めに入っている部分があった。規模は幅0.12~0.48m、深さ0.14~0.30mを測る。検出長は6.2mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。本址の覆土は小石や砂が詰まった状態であり、流水の結果と考えられる。本址からの出土遺物は無かった。

(7) M7号溝状遺構

本址は調査地西よりのB-け・こ-8・9Grで検出された。北側と南側が調査区域外となる。形態は断面逆台形の形状で、底面はほぼ平坦であった。規模は検出部分で幅1.48～1.74m、最深部0.60mを測る。検出長は5.02mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

本址からの出土遺物は須恵器片があったが小片であり図化できなかった。

(8) M8号溝状遺構

本址は調査地西端のC-うー9、C-えー8・9Grで検出された。北側は調査区域外となり、南側は地形の傾斜に沿うようになくなっている。形態は断面「V」字状で、底面は非常に狭く、屈曲していた。規模は検出部分で幅0.16～0.92m、深さ0.07～0.44mを測る。検出長は4.54mを測る。本址の覆土は砂や小石が下層に詰まった状態で、水流による影響が考えられる。本址からの出土遺物は無かった。

(9) M9号溝状遺構

本址は調査地中央のB-えー8・9、B-おー9Grで検出された。南側は調査区域外となり、北側は検出できなかった。形態は断面逆台形状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.60～1.10m、深さ0.07～0.13mを測る。検出長は2.88mを測る。本址からの出土遺物は無かった。

(10) M10号溝状遺構

本址は調査地中央のB-いー8・9Grで検出された。南側は調査区域外となり、北側は検出できなかった。形態は断面「U」字状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.46～0.64m、深さ0.09～0.16mを測る。検出長は2.64mを測る。本址からの出土遺物は無かった。

(11) M12号溝状遺構

本址は調査地南西部のD-きー1・2・3、D-くー2・3Grで検出された。南北側が調査区域外となる。本址は検出状態が南北方向に3本の溝状遺構の並走のように見えるが、断面観察の結果、遺構深度がある部分のみが残存していることが確認できた。よって、本址は一本の溝状遺構であり、現状では西端の最深部が溝の中心と考えられる。溝形態は断面「U」字状で、底面は平坦であった。深さは0.11～0.44m、幅はそれぞれが0.32～0.96mである。本址は形状や覆土の状況から流水の影響を受けていると考えられる。

本址からは3点の遺物を図示した。1は須恵器蓋であり、内面に凸状の返りを有する。天井部に自然軸が確認できる。2は縄文土器の深鉢であり、胴部にわずかに縦方向の沈線といわゆる鱗状沈線が確認できる。このことから中期後半の「郷土式」の範疇として捉えられる。3は砥石的な石製品で3面の砥面が確認できる。

(12) M13号溝状遺構

本址は調査地南西部のC-か・きー9・10、D-か・きー1、D-かー2Grで検出された。南北側は調査区域外となる。本址もM12号溝状遺構と同じく、2本の溝状遺構の並走のように見えるが、断面観察の結果、遺構深度がある部分のみが残存していることが確認できたため同一遺構として報告する。形態は断面「U」字状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.36～1.64m、深さ0.08～0.23mを測る。検出長は8.12mを測る。本址の覆土は砂や小石が下層に詰まった状態で、水流による影響が考えられる。

本址からは土師器裏片が出土したが小片のため図化できなかった。

(13) M14号溝状遺構

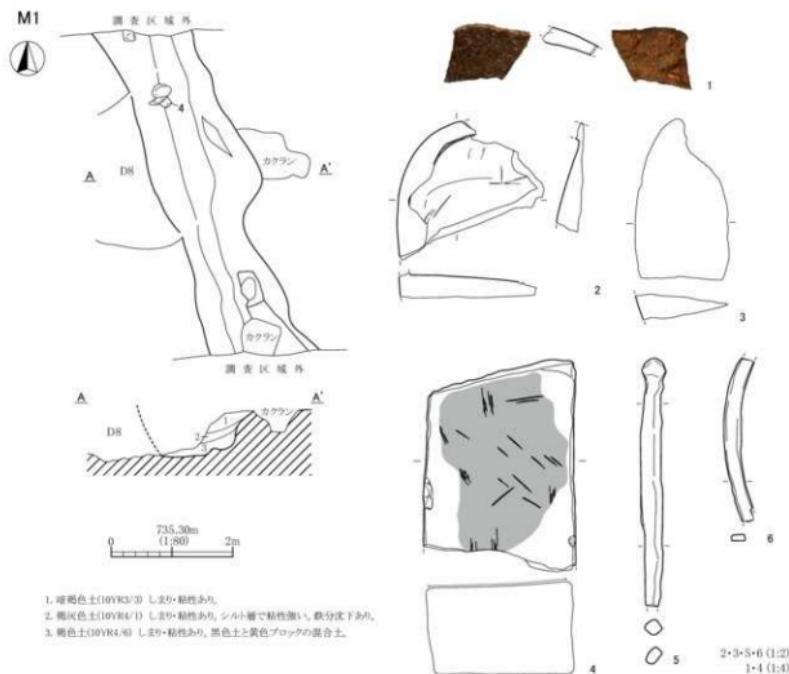
本址は調査地東端のA—こー8・9Grで検出された。南北方向に延びる溝状遺構であるが、北側は検出できなかつた。形態は断面「U」字状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.24～0.76m、深さ0.09～0.16mを測る。検出長は2.24mを測る。本址からの出土遺物は無かつた。

(14) M15号溝状遺構

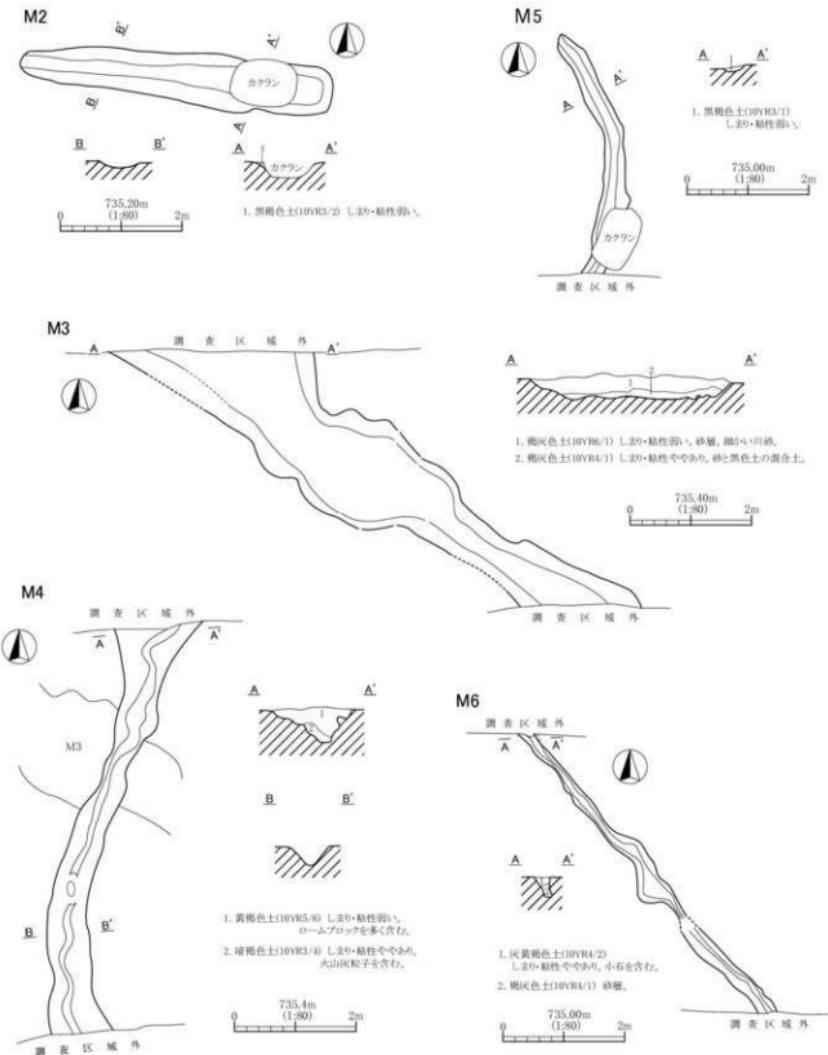
本址は調査地東よりのB—あー8・9Grで検出された。北側はD8号土坑に削平され、南側は調査区域外となる。形態は断面「U」字状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.18～0.32m、深さ0.09～0.13mを測る。検出長は2.00mを測る。本址からの出土遺物は無かつた。

(15) M16号溝状遺構

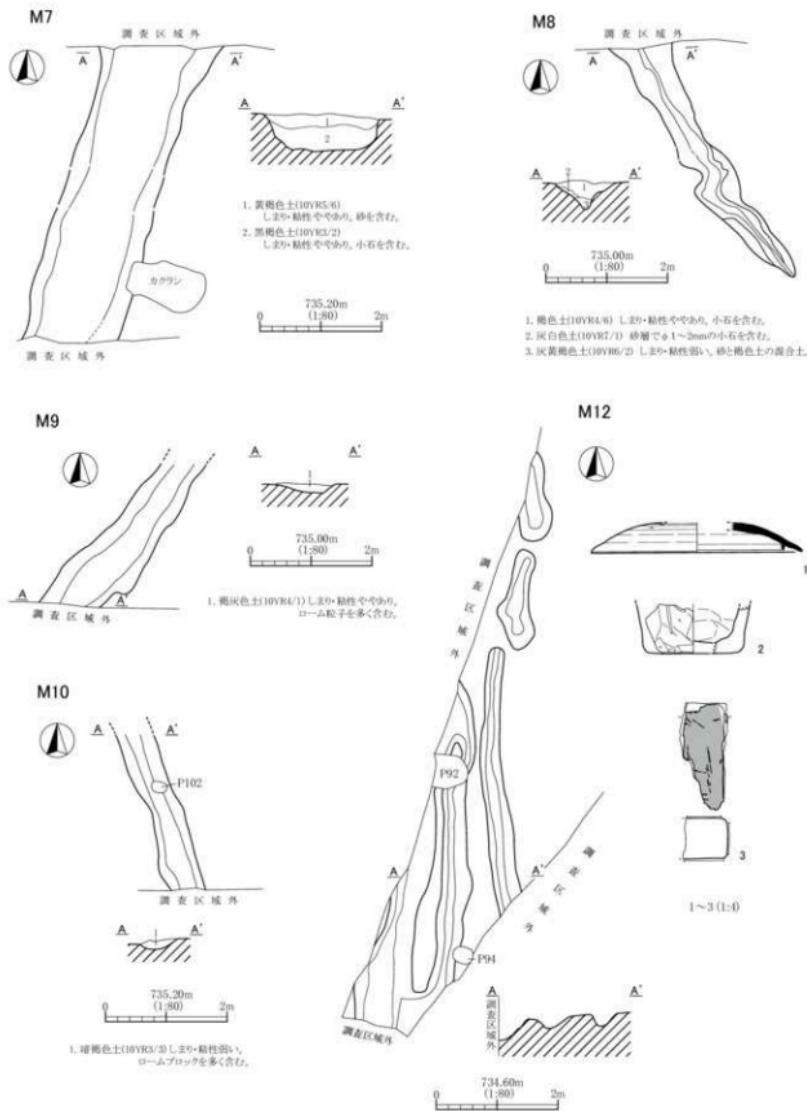
本址は調査地中央のB—おー8Grで検出された。北側は調査区域外となる。また中央部が途切れているが、遺構深度が浅くなつた為であり同一遺構と判断した。形態は断面「U」字状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.16～0.34m、深さ0.03～0.07mを測る。検出長は3.24mを測る。本址からの出土遺物は無かつた。



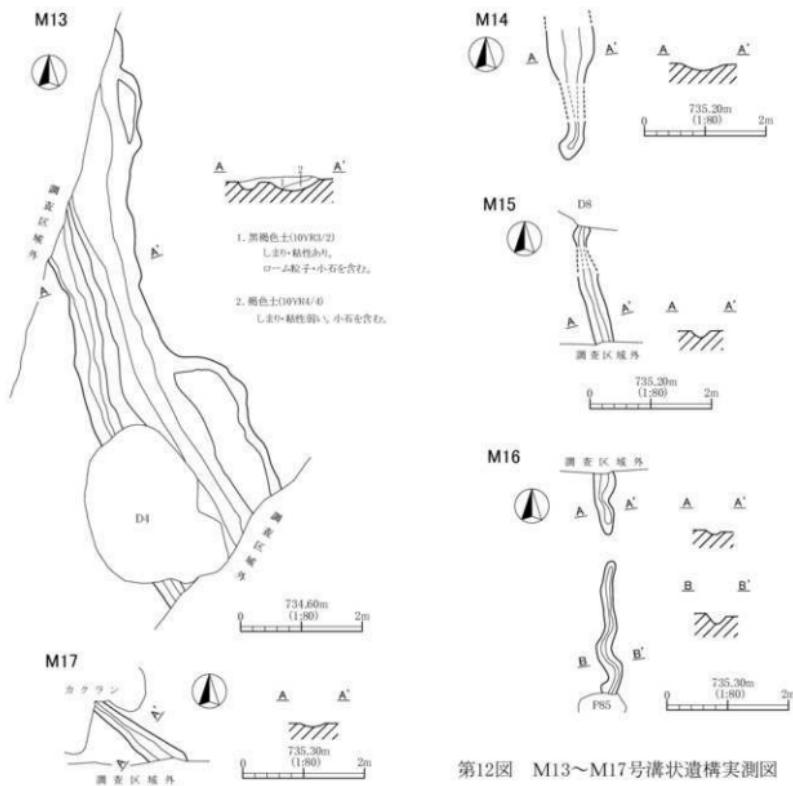
第9図 M1号溝状遺構及び出土遺物実測図



第10図 M 2 ~ M 6 号溝状遺構実測図



第11図 M 7 ~M12号溝状遺構及び出土遺物実測図



第12図 M13～M17号溝状遺構実測図



第13図 遺構出土物実測図

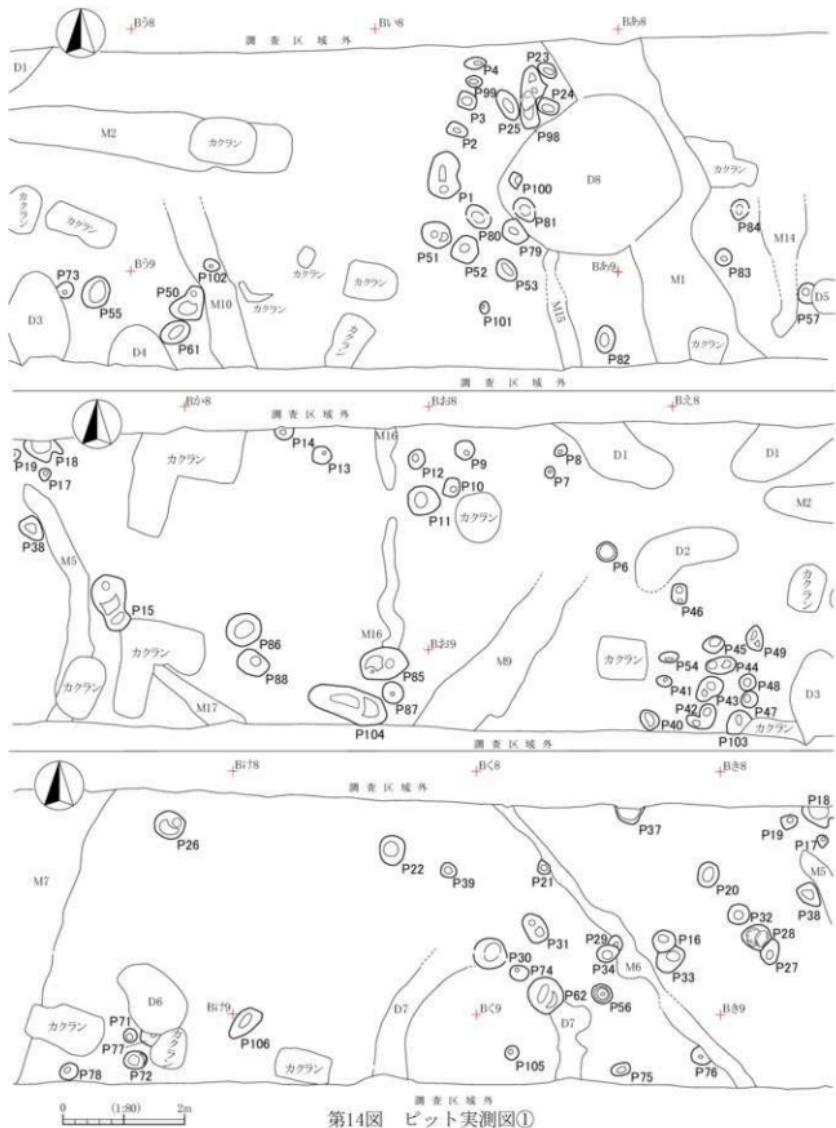
(16) M17号溝状遺構

本址は調査地中央のB-お・かー9Grで検出された。南側は調査区域外となり、北側はカクランにより削平されている。形態は断面「U」字状で、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は検出部分で幅0.22～0.42m、深さ0.05～0.08mを測る。検出長は1.72mを測る。本址からの出土遺物は無かった。

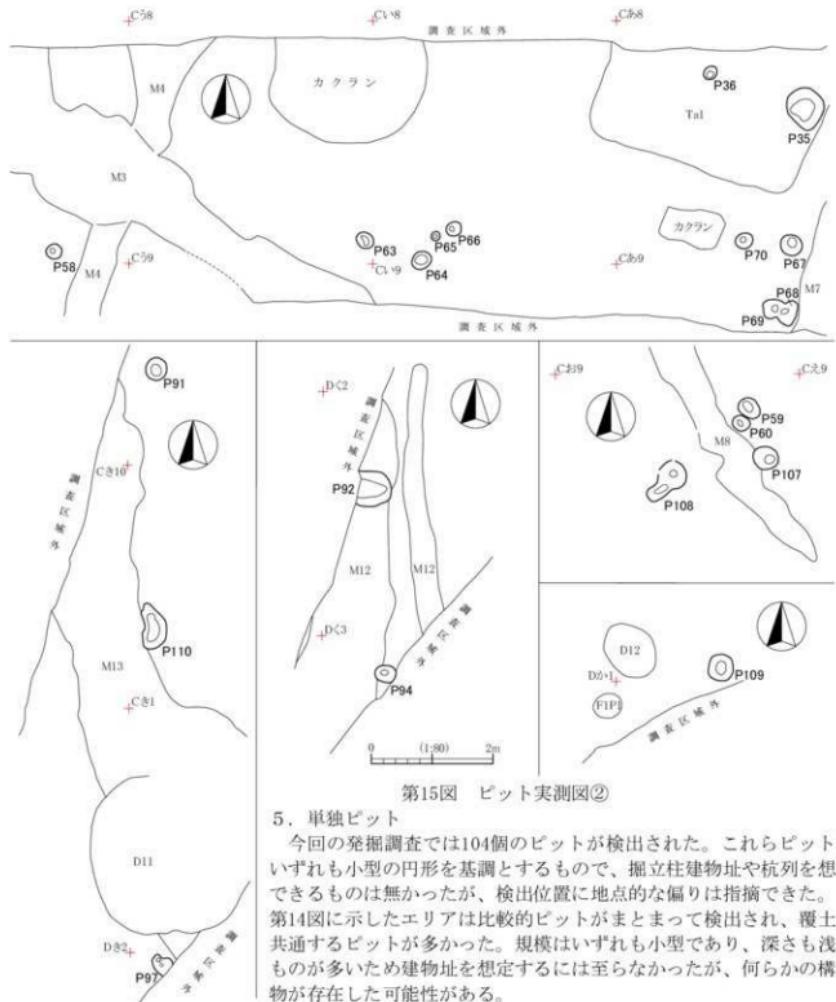
第1表 ピット計測表

()推定 ()残存 単位m

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土植物 重複閾値	備 考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土植物 重複閾値	備 考	
P1	B-か-8	0.26	0.06	0.27	不規則 圓錐形	褐色土(10YR4/1)		P53	B-か-8-9	0.41	0.29	0.13	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P2	B-か-6	0.34	0.22	0.13	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P54	B-か-9	0.36	0.18	0.13	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P3	B-か-8	0.31	0.25	0.23	方形	褐色土(10YR4/1)		P55	B-か-9	0.56	0.43	0.11	橢円形	付伊方型	褐色土(10YR4/1)	
P4	B-か-6	0.26	0.26	0.16	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P56	B-か-8	0.34	0.26	0.05	円形		褐色土(10YR4/1)	
P5	欠番							P57	A-か-9	0.32	0.22	0.23	-	D32%古	褐色土(10YR4/1)	
P6	B-か-6	0.32	0.32	0.03	円形	褐色土(10YR4/1) コムブリツカシむ。		P58	C-か-8	0.26	0.25	0.22	円形		褐色土(10YR4/1)	
P7	B-か-8	0.16	0.16	0.16	円形	褐色土(10YR4/1)		P59	C-か-9	0.26	0.20	0.05	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P8	B-か-6	0.22	0.16	0.08	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P60	C-か-9	0.28	0.23	0.42	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P9	B-か-6	0.31	0.21	0.08	円形	褐色土(10YR4/1)牛込入		P61	B-か-9	0.52	0.36	0.26	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P10	B-か-6	0.30	0.24	0.43	方形	褐色土(10YR4/1)		P62	B-か-8	0.56	0.55	0.27	円形	D32%古	褐色土(10YR4/1)	
P11	B-か-8	0.51	0.48	0.24	円形	褐色土(10YR4/1)		P63	C-か-8	0.30	0.24	0.24	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P12	B-か-8	0.30	0.27	0.47	円形	褐色土(10YR4/1)1段物		P64	C-か-8-9	0.32	0.30	0.32	円形		褐色土(10YR4/1)	
P13	B-か-8	0.29	0.28	0.42	円形	褐色土(10YR4/1)		P65	C-か-9	0.14	0.18	0.20	円形		褐色土(10YR4/1)	
P14	B-か-8	0.20	0.31	0.35	-	褐色土(10YR4/1)		P66	C-か-8	0.25	0.22	0.22	円形		褐色土(10YR4/1)	
P15	B-か-6	0.94	0.40	0.79	不規則	褐色土(10YR4/1)		P67	B-か-8	0.36	0.24	0.27	円形		褐色土(10YR4/1)	
P16	B-か-6	0.36	0.26	0.35	円形	P32%古新		P68	B-か-9	0.41	0.26	0.26	-		褐色土(10YR4/1)	
P17	B-か-6	0.20	0.18	0.11	円形	褐色土(10YR4/1)		P69	B-か-9	0.29	0.30	0.27	-		褐色土(10YR4/1)	
P18	B-か-6	0.52	0.42	0.19	-	褐色土(10YR4/1)		P70	B-か-8	0.30	0.24	0.27	円形		褐色土(10YR4/1)	
P19	B-か-6	0.28	0.22	0.24	不規則	褐色土(10YR4/1)		P71	B-か-7	0.23	0.21	0.14	円形		褐色土(10YR4/1)	
P20	B-か-8	0.49	0.35	0.37	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P72	B-か-7	0.36	0.28	0.05	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P21	B-か-6	0.26	0.26	0.41	-	M62%古		P73	B-か-9	0.25	0.26	0.22	-	D32%古	褐色土(10YR4/1)	
P22	B-か-6	0.48	0.41	0.11	橢円形	褐色土(10YR4/1) ローム含む。		P74	B-か-8	0.36	0.24	0.49	橢円形	D72%古	褐色土(10YR4/1)	
P23	B-か-6	0.23	0.23	0.17	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P75	B-か-9	0.21	0.19	0.29	円形		褐色土(10YR4/1)	
P24	B-か-6	0.35	0.25	0.18	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P76	B-か-9	0.31	0.28	0.52	-	M62%古	褐色土(10YR4/1)	
P25	B-か-6	0.54	0.28	0.09	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P77	B-か-7	-	-	0.25	-	D62%古	褐色土(10YR4/1)	
P26	B-か-6	0.48	0.33	0.22	円形	褐色土(10YR4/1)		P78	B-か-7	0.28	0.28	0.29	円形		褐色土(10YR4/1)	
P27	B-か-8	0.80	0.30	0.26	-	褐色土(10YR4/1)		P79	B-か-8	0.44	0.32	0.25	-	D82%古	褐色土(10YR4/1)	
P28	B-か-6	0.33	0.48	0.44	-	褐色土(10YR4/1)		P80	B-か-9	0.46	0.32	0.18	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P29	B-か-6	0.16	0.22	0.48	-	M6-P32%古		P81	B-か-8	0.45	0.33	0.40	橢円形	D82%古	褐色土(10YR4/1)	
P30	B-か-6	0.56	0.30	0.50	円形	D72%古		P82	B-か-9	0.44	0.20	0.19	橢円形		褐色土(10YR4/1)	
P31	B-か-6	0.51	0.22	0.42	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P83	A-か-8	0.27	0.26	0.21	円形		褐色土(10YR4/1)	
P32	B-か-8	0.35	0.33	0.32	円形	褐色土(10YR4/1)		P84	B-か-8	0.34	0.26	0.27	円形		褐色土(10YR4/1)	
P33	B-か-8	0.47	0.29	0.37	-	P10%古		P85	B-か-9	0.79	0.49	0.55	橢円形	M16.2%古	褐色土(10YR4/1) まゆ・粘性弱。	
P34	B-か-8	0.38	0.29	0.38	橢円形	M16.2%古P29%古		P86	B-か-8	0.59	0.52	0.58	円形		褐色土(10YR4/1) まゆ・粘性弱。	
P35	B-か-6	0.69	0.56	0.49	橢円形	Tal1%古		P87	B-か-9	0.38	0.34	0.46	円形		褐色土(10YR4/1) まゆ・粘性弱。	
P36	B-か-8	0.21	0.20	0.38	円形	Tal1%古		P88	B-か-9	0.50	0.38	0.53	円形		褐色土(10YR4/1) まゆ・粘性弱。	
P37	B-か-6	0.25	0.41	0.45	-	褐色土(10YR4/1)		P89	BIP1に変更							
P38	B-か-6	0.44	0.29	0.19	不規則	褐色土(10YR4/1)		P90	BIP1に変更							
P39	B-か-8	0.25	0.24	0.33	円形			P91	C-か-9	0.34	0.34	0.11	円形		褐色土(10YR4/1)	
P40	B-か-9	0.35	0.28	0.14	橢円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P92	D-か-9	0.35	0.57	0.29	-	M12.2%古	褐色土(10YR4/1)	
P41	B-か-9	0.26	0.18	0.16	橢円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P93	BIP1に変更							
P42	B-か-9	0.52	0.20	0.21	不規則	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P94	D-か-3	0.32	0.25	0.26	橢円形	M12.2%古	褐色土(10YR4/1)	
P43	B-か-9	0.56	0.22	0.28	不規則	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P95	BIP1に変更							
P44	B-か-9	0.50	0.22	0.18	橢円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P96	BIP1に変更							
P45	B-か-9	0.34	0.28	0.26	橢円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P97	D-か-2	0.33	0.21	0.48	-		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子多。	
P46	B-か-8	0.32	0.24	0.18	方形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P98	B-か-9	1.02	0.27	0.23	不規則			
P47	B-か-9	0.26	0.24	0.14	円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P99	B-か-9	0.28	0.18	0.11	橢円形			
P48	B-か-8	0.27	0.27	0.19	円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P100	B-か-8	0.22	0.22	0.10	-	D82%古		
P49	B-か-8	0.40	0.28	0.19	橢円形	褐色土(10YR4/1) しまり弱。		P101	B-か-9	0.20	0.15	0.12	橢円形			
P50	B-か-9	0.61	0.42	0.33	不規則	褐色土(10YR4/1)		P102	B-か-8	0.26	0.20	0.12	橢円形	M10.2%古		
P51	B-か-8	0.51	0.42	0.29	橢円形	褐色土(10YR4/1)		P103	B-か-9	0.38	0.24	0.24	-			
P52	B-か-8	0.44	0.44	0.17	円形	褐色土(10YR4/1)		P104	B-か-9	1.32	0.49	0.23	橢円形			
							P105	B-か-9	0.22	0.22	0.23	円形				
							P106	B-か-9	0.64	0.33	0.22	橢円形				
							P107	C-か-9	0.42	0.20	0.48	円形	M10.2%古			
							P108	C-か-9	0.77	0.24	0.26	不規則				
							P109	C-か-10	0.45	0.26	0.16	橢円形				
							P110	C-か-10	0.26	0.30	0.26	M13.2%古				



第14図 ピット実測図①



第15図 ピット実測図②

5. 単独ピット

今回の発掘調査では104個のピットが検出された。これらピットはいずれも小型の円形を基調とするもので、掘立柱建物址や杭列を想定できるものは無かったが、検出位置に地点的な偏りは指摘できた。

第14図に示したエリアは比較的ピットがまとまって検出され、覆土も共通するピットが多かった。規模はいずれも小型であり、深さも浅いものが多いため建物址を想定するには至らなかったが、何らかの構築物が存在した可能性がある。

6. 遺構外出土遺物

本項では遺構に伴わない出土遺物について記載する。1は山茶碗系の碗で、口縁部はいわゆる玉縁となっている。自然釉が付着している。所産時期は13世紀代と考えられる。2は須恵器甕の胴部破片であり、外面に敲き目、内面はナデが施されている。

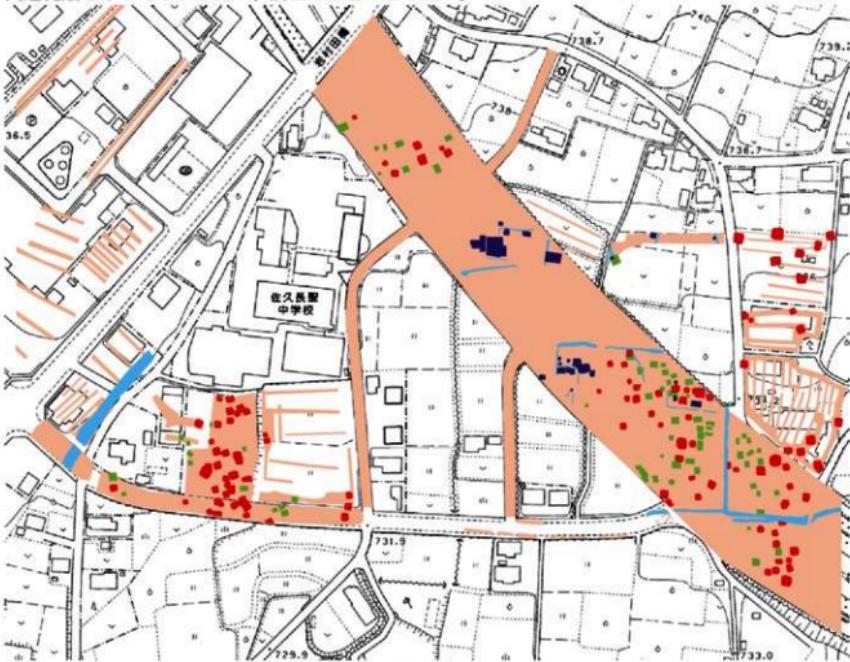
第III章 調査のまとめ

今回の発掘調査は道路建設に伴う調査であったため、東西方向に幅6mのトレーナーを開けた状態の調査であった。その結果、周辺部の調査成果と合わせると岩村田赤座地籍の歴史的な土地利用がおぼろげながら見えてきたようになる。本章ではそれらの事を列記して調査のまとめとしたい。

まず、古代の集落展開であるが、今回の調査では古代に比定できる堅穴住居址は発見されなかった。唯一、F1号掘立柱建物址が古代に比定可能と考える。このように、当遺跡周辺まで古代の集落は展開していないことが判る。第16図に示した堅穴住居址は一部古墳時代も含む11世紀代までの住居及び掘立柱建物の累積状態を示しているが、分布に明らかに偏りがあるのが見て取れる。つまり、台地上でも集落が展開するのは湯川側に近い台地東側と100m程間隔を開けた台地上に南北に帯状に集落が展開する様子が読み取れる。これに比し、中世の遺構はあまり古代の集落と重複せず、むしろ古代の集落が展開しない台地部分に立地する。

これらの相違はなにゆえに起こるのであろうか。まず考えられるのが同じ台地上であるが、今回の調査地点も含め中世の遺構群が展開する場所は、最近まで水田として利用されている部分が多く、周辺よりもわずかに低い部分である事である。古代の堅穴住居と中世の掘立柱建物という住環境の変化がもたらす立地の差であろうか。

しかし、あえて水田耕作可能部分に居住域を設定する理由が現状では判らない。今回は今後の課題としたいが、水利権の確保や、中世の寒冷化などの気候変動なども視野に入れた考察が必要であろう。問題提起となってしまったが、調査のまとめとしたい。



第16図 周辺遺跡調査成果図 赤(古代住居) 緑(古代掘立柱) 青(中世建物) 青(中世区画溝)



調査区全景(北より)



調査区全景(西より)

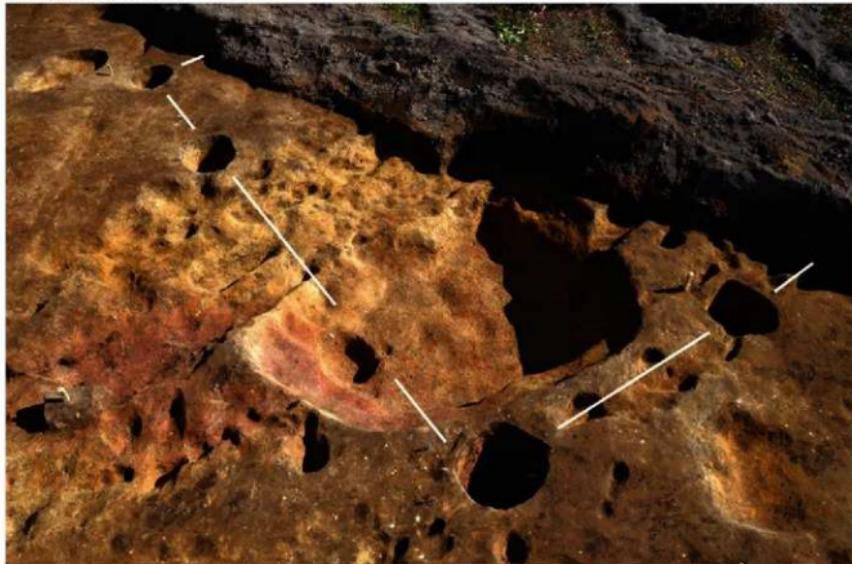


調査風景(東より)

図版 2



Ta 1号窓穴建物址 (西より)



F 1号掘立柱建物址 (西より)



M 1 号溝状遺構(北側)



M 1 号溝状遺構(南側)



M 3 号溝状遺構



M 2 号溝状遺構(東より)



M 4 号溝状遺構(南側)



表土剥ぎ状況(東より)

图版 4



M 5 号溝状遗模



M 6 号溝状遗模



M 7 号溝状遗模



M 8 号溝状遗模



M 9 号溝状遗模



M 10 号溝状遗模



M 12 号溝状遗模



M 13 号溝状遗模



図版 6



D11号土坑



D12号土坑



D13号土坑



調査地点より北方の浅間山を望む



道路竣工後全景（東より）

報告書抄録

ふりがな	くりげざかうせきぐん ひがしあかざいせきさん							
書名	栗毛坂遺跡群 東赤座遺跡III							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第294集							
編著者名	富沢 一明							
編集機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込2913 TEL0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	2024年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		東経	北緯	発掘期間	発掘面積 (m ²)	発掘原因
市町村	遺跡番号							
さくしいわむらだ 佐久市岩村田 3759-5 (ほか)	20217	10	138° 48.69	36° 28.41	2021.10.11 ～ 2021.11.22	452	導水路 新設改良 事業	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
栗毛坂遺跡群 東赤座遺跡III	散布地	縄文 古代 中世	堅穴建物址 1棟 掘立建物址 1棟 溝状遺構 13本 土 坑 13基	縄文土器 須恵器 石製品				
要約	佐久地域北部に広がる台地上を発掘調査した。その結果、上信越自動車道建設の折に調査された中世前期と考えられる屋敷地に續くと考えられる関連遺構が検出された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第294集

栗毛坂遺跡群 東赤座遺跡III

2024年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

TEL0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限会社